

江戸東京

たてももの園 だより 65

Edo-Tokyo Open Air
Architectural Museum

特別展「江戸東京博物館コレクション～江戸東京の暮らしと食べ物～」

◎たてももの園ナビ—たてももの園の音—

◎すすむ東京学芸大学との連携 これからの30年にむけて

◎注目! 村上精華堂と古代ローマの列柱

◎季節の装い～秋・冬～

◎“誰もが楽しめる博物館”をめざして

◎事業予定2025年4月～2026年3月

◎スケッチブック

◎たてももの園日誌

特別展

江戸東京博物館コレクション

江戸東京のくらしと食べ物

2025年(令和7)3月20日(木・祝)～6月15日(日)

江戸東京たてももの園では、2022年(令和4)より休館中の江戸東京博物館のコレクションを紹介する展覧会を開催してきました。今回の特別展「江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと食べ物～」は、江戸東京博物館の常設展の中から食に関連するコーナーを取り上げ、そこで展示されていた資料やパネルなどを用いて江戸から近現代の食べ物の変遷を紹介いたします。



てんぷらを食べる女性「風俗三十二相 むまさう 嘉永年間女郎之風俗」(月岡芳年/画 1887年(明治21)) 展示期間: 3/20～4/20

第一章 華開く江戸の食文化

1590年(天正18)に関東に入った徳川家康は江戸を本拠地とし、1603年(慶長8)、征夷大將軍となったのは、幕府の所在地にふさわしい都市とするため、江戸の開発を推し進めました。日本の政治の中心地として武士が多く居住するようになり、それとともに彼らの生活を支える商人や職人なども増え、18世紀には世界屈指の巨大都市へと発展し、政治・文化の中心地として成熟していきました。

人々の日々の暮らしを支えたのは、江戸とその周辺の農村との間に独自のネットワークが形成されたことでした。



江戸の料理屋の番付「御料理献立競」(江戸時代)

江戸周辺の村では、野菜や魚介、雑穀などを商品として出荷し、少し離れた関東近国の村では、醸造品などを利根川や江戸川を使った舟運によって江戸に送り込んでいました。このように豊かな食材に恵まれた環境の中から、寿司やてんぷらなど、現在世界中の人々を魅了する独自の食文化が華開きました。



幕府軍艦第二長崎丸関係資料 コンポート皿 (スポード社/製 1862年(文久2)以前)

第三章 食文化の文明開化

明治時代になり西洋料理が本格的に流入すると、政府も積極的に受け入れていきます。西洋諸国との外交を円滑に進めるために、フランス料理を公式

食生活に欠かせなくなりました。

第三章 戦中戦後の食事情

1942年(昭和17)、米をはじめ塩やみそ、しょうゆなどが次々と配給制となり、食卓に暗い影を落としました。この状況は終戦後もしばらく続



電気炊飯器 ER-5(東京芝浦電気株式会社/製 1955年(昭和30年))

第四章 外食産業の発達と食の多様化

終戦直後の深刻な食糧難は、日本経済の回復とともに次第に解消されていきました。人々の生活も向上し、一般家庭で西洋料理や中華料理が作られるようになるなど、食生活は多彩になっていきました。1970年(昭和45)、ファミリーレストランのスカイラーク(現すかいらく)が国立市に第1号店を開店、翌71年には銀座にマクドナルドの第1号店がオープンし、以後ファミリーレストラン、ファーストフードの大規模なチェーン展開がなされます。手ごろな値段段で食べられ、食事の準備も後片付けもなくなってよいという手軽さから、外食は日常化していきます。さらに、1980年代にはグルメブームがおこり、日本の食はますます多様化しました。

今日の日本の食文化は、江戸庶民の食が西洋料理と出会い、うまく混ざり合って新しい食文化へと進化し、戦中戦後の苦難の時代を乗り越えて一層多様化していきました。人々の「おいしい」の変遷に思いをはせていただければ幸いです。

(学芸員 阿部 由紀洋)



洋食店「煉瓦亭」のマッチラベル (昭和時代前期)



製麺機 (大野化学機械/製 1945～46年(昭和20～21))

の料理として採用しました。そして国民の体位の向上を図るために、長い歴史の中で忌避されていた肉食が解禁され、推奨されました。その後、東京では「牛鍋屋」が人気を集め多くの店が開店しました。

西洋料理は、導入の初期には一部の上流階級の人々のみが楽しむものでしたが、次第に日本人向けにアレンジしようとする料理人たちが努力を重ね、それが料理書を通して普及することで、次第に人々に浸透していきました。大正時代になると、これまでの食文化との融合が進み、日本風にアレンジされた西洋料理は「洋食」とも呼ばれるようになり、人気メニューとしての地位を確立していくこととなります。街中には洋食を提供する店が増え、人々の



フランス料理店「龍土軒」で使われた大皿 (明治時代後期)

注目！ 村上精華堂と古代ローマの列柱

出 桁造りの建築や看板建築が軒を連ねる東ゾーンですが、村上精華堂はその中でも、一際個性を放つ建物と言っています。

まず目に入る建物の正面には、イオニア式の列柱が立ち並んでいます。1階から2階へ貫く大きな3本の柱。2階部分と3階部分にそれぞれ並ぶ小さな6本の柱。いずれも柱頭にはヴォリュートと呼ばれる渦巻きがあり、古代ローマ建築のイオニア式オーダーの特徴を確認することができます。

オーダーとは、ルネサンス期の西洋の建築家が定義づけた古典主義建築における構成原理のことですが、それは5つの様式に装飾的な特徴とそれぞれに決まったプロポーションを定めたものでした。例えば、イオニア式のオーダーでは、先に述べた渦巻きの装飾等を持ち、柱の直径に対して柱の長さは9倍になっていることが多いです。この様式ごとに異なる秩序だった比率は特に重要で、



村上精華堂の列柱

柱の直径を基準にしたとき、柱の高さや柱間寸法、ひいては建物の大きさまで帰納的に決めることができたからです。では、村上精華堂のオーダーはどうなっているのでしょうか。実際に寸法を測ってみると、大きな3本の柱は少し細いようで、逆に3階の柱は少し太すぎています。さらに、商家としての間口に合わせるためか、柱の並び方などにも本来のオーダーが持つ秩序性を見ることはできません。

しかしながら、重要なのは、古代ギリシアで生まれたオーダーが古代ローマでは構造的制約から解放されて自由な意匠として取り込まれたように、看板建築として意匠的自由さが表れている点にあります。村上精華堂のオーダーは化粧品屋のイメージと合ったり、下町でもたてもの園でも、独自の個性と魅力を放っているのではないのでしょうか。

(専門技術員 持主 実)



古代ローマのコロッセオ外観 3種類の列柱が使われている

たてもの園ナビ たてもの園の音

突 然ですが、皆さんは「江戸東京たてもの園鑑賞ナビ(通称:たてもの園ナビ)」にアクセスしてみましたか?こちらは、鑑賞支援を目的として

昨年4月にリリースした、ウェブブラウザで見ることができるアプリです。このアプリに、展示物が街中にあった頃の様子を音で疑似体験できる機能が追加されました。対象の展示物は都電や、子宝湯などの6か所です。それぞれの紹介ページの「疑似体験」の項目から、音や店主のAI音声を聞くことができます。制作にあたり、実際に音が出る乗り物と上野消防署望楼上部の半鐘については、360度收音できる超高性能なマイクを使用して収録を行いました。こちらはイヤホンなどをお使いいただくと、より臨場感のある音声が聞こえます。

ほかにも、今まで一部に限定されていた学芸員によるみどころ解説が、園内のすべての復元建造物と屋外展示物でご覧いただけるようになりました。また、園内の6か所で見られるARを起動することで、各復元建造物に関連した豆知識を読むことができる機能も追加いたしました。

ぜひ、たてもの園ナビとともに園内の散策をお楽しみください。(学芸員 生田 真菜)



たてもの園ナビ



たてもの園ナビ 疑似体験ページ

季節の装い 秋 冬



雪の高橋是清邸



前川國男邸とノムラモミジ

冬のたてもの園は寒さ厳しい中にも、お正月の催しや成人の日、節分の豆まきなどで多くの方に季節の行事を楽しんでいただきました。また年に数日ではありますが、静かな園内に雪が降り積もる光景は歴史ある建物をさらに趣深くみせてくれます。季節によって変わる光の角度や庭の植物、鳥の声など、その時期、その時間に味わうことのできる風景も含めて、展示を楽しんでいただけたらと思います。たてもの園では四季折々の風景や行事などをX(旧Twitter)やInstagramで発信していきます。ぜひチェックしてみてください! (飯濱 妙)



豊かな自然の中に佇む歴史的建造物の園では、環境を活かして四季を通じた催しを行っています。令和6年度で開催15回目を迎えた「夜間特別開園紅葉とたてものライトアップ」は、深まる秋の夜に美しく照らし出される紅葉がみどころのひとつです。しかし昨年の秋は記録的に気温の高い日が続ぎ、開始以来最も木々の色付きが遅れていました。なかなか進まない紅葉に、自然相手のことはいえ何とか間に合っつてほしいと毎日祈るような気持ちでいると、幸い開催直前に冷え込みが増し、前川國男邸の色付くモミジをご覧いただくことができました。

すすむ東京学芸大学との連携 これからの30年にむけて

令 和6年3月、たてもの園は記念すべき開園30年の年を終えるにあたり、これまでの活動を踏まえつつ、これからの30年を見据えた新たな試みのひとつとして、社会教育の専門人材の養成課程をもつ東京学芸大学と包括的な連携協定を締結しました。この協定に基づいて準備を進めているのが、企画提案型ボランティア育成プログラム(仮称)です。

このプログラムは、東京学芸大学の学生が新しい教育普及活動を次々と企画・実施して、たてもの園のもつ可能性を新たに掘り起こし、来園者サービスの質的な向上をめざすとともに、たてもの園を社会教育における専門人材の育成の場としても活用していくことをめざしています。具体的には、まずこのプログラムに参加する学芸大生がたてもの園の基礎的な事項を学びます。それらを踏まえ、ワークショップをお互いに協議しながら企画し、学芸員のアドバイスのもとで実施・修正しながら最終的な完成をめざします。これまでにないチャレンジングな事業ですが、これら一連のプログラムは

令和7年度から本格的に始まり、これが軌道にのれば、活動の輪を東京学芸大学以外にも広げていく予定です。このプログラムから素敵な教育普及事業が次々と生まれ、たてもの園が笑顔の絶えない博物館として多くの市民から愛されることを夢見ながら、これからの30年を支える新たな理念のひとつとして、これを鍛えていきたいと考えています。(園長 市川 寛明)



連携協定締結式にて 左から、市川たてもの園園長、藤森江戸東京博物館館長、國分東京学芸大学学長、君塚教授、金子教授



事業予定

2025年4月 ▶ 2026年3月

復元建造物や季節にちなんだ催事を開催します。

展示年間スケジュール

◎江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと食べ物～

3月20日(木・祝)～6月15日(日) 本誌2～3頁を参照。

◎武蔵野の歴史と民俗～「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち～

7月19日(土)～12月14日(日)

江戸東京たてもの園の前身施設である武蔵野郷土館は、関東地方に所在する遺跡の発掘調査を行うと共に、武蔵野の民俗に関する資料の収集にも力を入れました。本展覧会では、武蔵野郷土館が収集してきた考古資料や歴史資料のほか、生業や生活、信仰、娯楽に関する民俗資料を紹介します。

◎昭和100年と江戸東京たてもの園

2026年3月20日(金・祝)～6月21日(日)

江戸東京たてもの園の地は、戦前・戦後・平成の各時代にそれぞれ独自の役割を与えられ、多くの人々が活躍する場所でした。小金井大緑地、上皇陛下ゆかりの地、高度経済成長下に各地の発掘調査を行った武蔵野郷土館の地、そして失われていく建物を残した江戸東京たてもの園の地、これらはそれぞれの時代背景を切り離して語ることはできません。昭和元年より100年目の節目の年にあたり、この地がどのような歴史をたどったかを見つめ直します。

こどもの日イベント

5月

こどもの日にちなんだ、昔のあそびやくらしの体験を楽しもう!

4日(日・祝)・5日(月・祝)



たてもの園 下町夕涼み

8月

下町の提灯のあかりや風鈴の音色など、夏の宵の風情をお楽しみください。

2日(土)・3日(日)



紅葉とたてものライトアップ

11月

紅葉が深まる時季、色づく木々と建物をほのかな光で美しく照らし出します。

22日(土)・23日(日・祝)



たてもの園でお正月

1月

しめ飾りや門松が立つ園内で、獅子舞や太神楽など新年にふさわしい催しを行います。

2日(金)・3日(土)



成人の日はたてもの園へ

1月

ハレの日の記念に、人力車で園内めぐりや昭和の写真館での記念撮影ができます。

12日(月・祝)



たてもの園フェスティバル

3月

桜のつぼみがほころぶ季節に大人も子供も楽しめるさまざまな催しで盛り上げられます。

27日(金)・28日(土)



伝統工芸の実演

毎月第2土曜日と翌日曜日
東京で活躍している職人による実演を見ることができます。

網島家年中行事

梅の土用干し・盆棚飾り・十五夜飾り・節分など、季節に応じた年中行事の展示を実施しています。

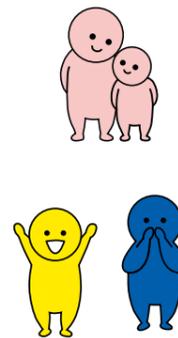
ミュージアムトーク

毎月第4土曜日
当園の学芸員などが展示や建造物について解説します。

※開催日や内容・名称が変更になることがあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。写真は過去の催しの様子です。



動画「江戸東京たてもの園 手話による施設紹介」



誰もが楽しめる博物館をめざして

アクセシビリティの向上をめざす博物館

今年度は東京で2つの国際スポーツ大会が開催されます。この2大会、東京2025世界陸上競技選手権大会と第25回夏季デフリンピック競技大会、東京2025に向けて、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園は、誰もが芸術文化を楽しめる環境の整備をめざし、博物館における情報保障（代替手段を用いて情報を提供すること）の取り組みを進めてきました。たてもの園ではこれまでも、園内の復元建造物を見学するためのスロープの設置をはじめ、受付に手話の対応ができるスタッフの常駐などを行ってきました。特に近年では、触ることで復元建造物の様子がわかる模型の展示、月例のミュージアムトークに際し、音声認識により会話を文字化する「コミュニケーションアプリ」「UDトーク」を導入するなど、障害のある方もない方も資料情報や解説に気軽にアクセスして園内を楽しんでいただけるよう徐々に環境を整備してきました。

デフリンピック1年前を意識した取り組み

デフ（Deaf）とは、耳が聞こえない人。聞こえにくい人を表すことばです。デフアスリートを対象とした国際スポーツ大会・デフリンピックは日本では初めての開催



催でありながら、今回で100周年の節目となる記念大会となります。当園では昨年11月23日・24日開催の夜間特別開園「紅葉とたてものライトアップ」がデフリンピックのちょうど1年前であることから、イベント内プログラム「キャンドルナイト」のテーマを「デフリンピック東京2025」とし、大会成功と障害への理解を広げる取り組みとしました。会場となる都電脇の東の広場に、大会公式エンブレムを5色のホルダーに入った1000個のキャンドルで描きました。（表紙写真参照）

新たなアクセシビリティの取り組み

令和6年度は、これまで行っていない新たな取り組みとして、動画「手話による施設紹介」の制作と2つの手話通訳つき教育普及プログラムを実施しました。動画は当園のウェブサイトで公開しており、日本語字幕と音声ガイドも付いています。袴姿の俳優・江副悟史さんがナビゲーターとなり、手話でたてもの園の見どころやおすすすめスポットをユーモラスに紹介した13分の映像です。



コミュニケーションから生まれる気づき

直な感想をいただきました。それぞれの楽しみ方で過ごされている来園者の様子や、寄せられたアンケートを手がかりにしながら、当園のミッションである歴史的建造物を通じて江戸東京の歴史と文化を伝えるには、どんな方法や工夫が必要なのか、話し合いを重ねながら模索しています。今後もみなさんの声を傾聴し、誰もが楽しめる博物館へと当園を前進させていきたいです。

（学芸員 丸山はるか）



手話通訳つきワークショップ「たてもの文様切り紙づくり」

博物館のお仕事体験

たてももの園では、地域の学校を対象に職場体験を実施しています。今年度も多くの生徒のみなさんが参加し、博物館の業務を体験しながら学びを深めました。

体験内容は、復元建造物や収蔵庫の見学、練習用の巻物や掛け軸を用いた資料の取り扱い実習、イベントの補助、来園者対応など、多岐にわたります。普段は立ち入ることのできない収蔵庫の見学では、膨大な文化財が一点ずつバーコードで管理され、温湿度が厳密に調整されている様子に驚き、生徒たちは学芸員の解説に熱心に耳を傾けていました。

天気の良い日には、復元建造物の窓や雨戸の開閉作業を体験することもあります。一部の木製雨戸に



ポスター掲示作業



復元建造物の窓や雨戸の開閉作業

使われている「猿」と呼ばれる鍵は、単純ながら正しい順序で操作しなければロックが外れません。生徒たちは初めて触れる古い仕組みに悪戦苦闘しながら、建物の歴史や構造を体感していました。

また接客業務の体験では、来園者と接しながら、「コミュニケーションの大切さを学ぶ機会にもなったようです。参加した生徒たちからは、「博物館の裏側を知ることが歴史や文化財への理解が深まり、新たな魅力を発見できた」といった感想が寄せられました。

こうした職場体験を通じて、生徒たちが歴史や文化の重要性を実感し、将来の進路選択に役立ててくれることを願っています。今後もしも世代に歴史や文化の価値を伝える取り組みを続けてまいります。

(古市 麻美)

たてももの園日誌 2024年(令和6)10月～2025年(令和7)3月

2024年(令和6)		2025年(令和7)	
10/1(火)	都民の日(入園無料)	1/2(木)・3(金)	正月特別開園(入園無料)
10/5(土)～12/15(日)	特別展 武蔵野の歴史と民俗 ～「武蔵野郷土館」がのこしたモノたち～	1/11(土)・12(日)	伝統工芸の実演「江戸表貝/篠笛」
10/10(木)～14(月・祝)	網島家年中行事「十三夜飾り」	1/13(月・祝)	成人の日はたてももの園へ
10/12(土)・13(日)	伝統工芸の実演「江戸提灯/東京手描友禅」	1/15(水)～1/19(日)	網島家年中行事「小正月・繭玉飾り」
10/19(土)・20(日)	東京大茶会2024(主催:東京都、アーツカウンシル東京)(入園無料)	1/25(土)	ミュージアムトーク「江戸の商家と看板について」
10/26(土)	ミュージアムトーク 「特別展『武蔵野の歴史と民俗』みどころ」(手話通訳付き)	1/25(土)	ワークショップ「どうやって使うの?黒電話」
11/3(日・祝)	特別展開連企画 講演会「武蔵野郷土館の思い出」	2/2(日)	網島家年中行事「節分」
11/9(土)・10(日)	伝統工芸の実演「江戸籠甲/東京仏壇」	2/8(土)・9(日)	伝統工芸の実演「こぎん刺し/和裁仕立」
11/23(土・祝)	ミュージアムトーク 「特別展『武蔵野の歴史と民俗』みどころ」(手話通訳付き)	2/22(土)	ミュージアムトーク「復元建造物の修繕工事(R6)」
11/23(土・祝)・24(日)	夜間特別開園 紅葉とたてもものライトアップ	2/22(土)	ワークショップ「どうやって使うの?黒電話」
12/11(水)～1/13(月・祝)	網島家年中行事「大根干し」	3/8(土)・9(日)	伝統工芸の実演「江戸すだれ/和裁」
12/14(土)・15(日)	伝統工芸の実演「木版画彫/彫金」	3/20(木・祝)～6/15(日)	特別展「江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと食べ物～」
12/16(月)	測ってみよう!江戸東京たてももの園～3Dスキャンワークショップ～	3/22(土)～	開園時間を夏時間に変更
12/21(土)	ミュージアムトーク「村上精華堂と古代ローマ建築」	3/22(土)	ミュージアムトーク「特別展『江戸東京博物館コレクション～江戸東京のくらしと食べ物～」みどころ」
12/21(土)	ワークショップ「どうやって使うの?黒電話」	3/22(土)	ワークショップ「どうやって使うの?黒電話」
12/25(水)～1/1(水・祝)	年末年始休園	3/24(月)	臨時開園
		3/27(木)・28(金)	たてももの園フェスティバル
		3/28(金)	たてももの園開園記念日(入園無料)

建造物修繕などの工事 [三井八郎右衛門邸] 令和6年10月29日(火)～令和7年3月中旬、[武居三省堂] 令和6年11月26日(火)～令和7年3月中旬、[デ・ラランデ邸] 令和6年12月24日(火)～令和7年3月中旬、[前川園男邸] 令和7年2月5日(水)～令和7年3月下旬、[子宝湯] 令和7年2月11日(火・祝)～令和7年3月中旬、[常盤台写真場] 令和7年2月17日(月)～令和7年3月中旬

開園時間
4月～9月 9:30～17:30
10月～3月 9:30～16:30
※入園は閉園の30分前まで

休園日
毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合はその翌日)
年末年始

交通
JR中央線「武蔵小金井」駅よりバス5分 北口2・3番のりばから→「小金井公園西口」下車、徒歩5分
西武新宿線「花小金井」駅よりバス5分 「南花小金井」(小金井街道沿い)から武蔵小金井駅行き→「小金井公園西口」下車、徒歩5分
※こ来園の際は公共交通機関をご利用ください。当園専用駐車場はありません。車の場合は、小金井公園内の有料駐車場をご利用ください。

観覧料
一般 400円(320円)
65歳以上の方 200円(160円)
大学生(専修・各種含む) 320円(250円)
高校生 200円(160円)
※()は有料入園者20名以上の団体料金
中学生および小学生以下は無料
※4月1日より中学生(部分)も無料になります

